



# 七校便り

宮城県白石高等学校七ヶ宿校

No. 61

平成26年11月 1日

## 生徒生活体験発表 宮城県大会出場

### 小松 千晶 さん

10月4日(土)田尻文化センターで、第62回となる、生徒生活体験発表 宮城県大会が行われ、宮城県内にある定時制通信制の高校から、代表14名が出場しました。七ヶ宿校からは1年の小松千晶さんが出場し、『本当の友達とは?』と題して、自らの体験や思いを堂々と発表しました。



小松千晶さん(1年)

### 『本当の友達とは?』

友達とは、弱い人達を次々と不幸にしていくという、恐ろしい人たちのことなんだと、幼い頃は思っていた。しかしそれは、ただの思い込み。成長するにつれて、そう考えられるようになった。私には、そんなひどい友達がいるはずがない。わずかな希望でも、私は共に過ごしてきた友人達を信じ続けた。しかし、その希望は踏みにじられてしまった。

それは中学最後の文化祭の二ヶ月前のこと。同じクラスの女子に、「今度の文化祭、ダンスするんだけど、人数足りないから出てくれないかな」と声を掛けられました。私はダンス

が大好きだったため、迷わず引き受けました。それから、私を含め七人で、二ヶ月前の文化祭まで、休み時間も使って、毎日毎日お互い助け合いながら練習し、とうとう文化祭当日を迎えました。私たちは揃いの衣装を着てステージに立ち、最後までミスをせずに踊り終えました。結果は大成功。私たちにとって最高の思い出ができたこと、心の底から思いました。

しかし、その数日後の二者面談で、私はこれまでにないショックを受けました。

「千晶はなんで、文化祭の練習の後、机やイスをめちゃくちゃにして帰ったのかな?他の生徒も教室使うし、あなたのやった事は本当に迷惑だし、先生方もあなたにショックを受けてたよ」

どういう事?少しも心あたりはありませんでした。先生の言葉が全く理解できないまま、さらに動揺させる言葉が・・・。

「一緒に練習したメンバーにも聞いてみたけど、メンバー全員が、千晶が勝手にやったことで、何も関係ない、って言ってたよ。」

私はそんなこと一度もした覚えがない。他のメンバーは、全ての責任を私に押しつけたのでした。しかも先生はそれを信じ、私のことを信じてくれませんでした。これで、友達に対する少しの希望は完全に消滅してしまい、目の前が、真っ暗になりました。帰宅した私は、自分の部屋の中で激しく泣き叫びました。

翌日、メンバー全員に直接聞いてみても、先生が言っていた言葉が返ってただけでした。私はただ、人数が足りないから誘われただけ、用が済んだら、すぐにゴミのように捨てられた。そう、使い捨て。私は「希望」も「信頼」も「喜び」も、全て失ってしまいました。みんなを強く恨み、憎みました。

もしかしたら私にもどこか悪い所があるのかもしれない……。でも、何が悪いのか分からない……。そんなことを思いながら、私は自分自身を痛めつけました。私はもう誰も信じたくない、もう一人でいたい、とそれ以来ずっと思ってきました。

中学時代の、あの思いをひきずった私を、変えてくれたのが、ここ七ヶ宿校でした。心細く、一人でいる私に、優しく話し掛けてくれたり、時には本音を言ってくれました。私が成績のことで一人悩んでいたときに、クラスメイトは、自分が嫌われることを覚悟で、「そんな調子だと何も変わらないよ！もっとしっかり考えてみなよ！」と厳しく言ってくれました。中学時代の友人からはこんなアプローチはなかったので、最初はびっくりしましたが、この出来事で私は、一緒に居るだけが友達なのではなくて、ダメならダメと、私の身になって言ってくれる人や、傷付くようなことでも、本当のことをズバリ言ってくれる人の事を、本当の友達というのだと、この時新しいクラスメイトから教わりました。私の為に優しく励ますだけではなく、時には厳しく言ってくれる友人に、ここ七ヶ宿校で出会うことができました。みんなは私の最高の友達です。

本当にありがとう……。

## 文化祭(白七祭)開催

10月25日(土)前日祭、26日(日)一般公開が開催されました。両日とも、晴天に恵まれ一般公開では、多くの保護者や卒業生、地域の方々に来校して頂き、盛況に実施することができました。特に、保護者の皆さんには、バザーや愛情たっぷりの芋煮や焼きそば、焼鳥を作って頂き、母ちゃん・父ちゃんパワーを改めて感じました。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。



前日祭でのステージ発表



ストラップ作りに挑戦!



見事な切り絵!



保護者の皆さん愛情たっぷり  
ありがとうございます。